

「箕面市の自治会を考える会」のこれから

1 自治会(長)をソフト面で守る!

自治会(長)の困りごとに寄り添い、一緒に悩み、上手に運営している自治会と繋がれる「相談窓口」や「仲間ができる」場所でこれからも在り続けます!

2 地縁団体が横で繋がる!

自治会関係者だけではなく、地区福社会やコミセンの方々も対話ミーティングに参加され、自治会内部の課題にとどまらず地縁団体と相互に悩みや課題を出し合い、地域の課題に取り組む!

3 これからも三者協力体制で!

市は、自治会の立ち上げや各種補助金の受給申請などの「ハード面」を。考える会は自治会長経験を活かし、当事者でなければわからない悩みをソフト面からサポート。社協は地域コーディネーター、マネジメント機関として。
それぞれ三者の強みを活かしながら自治会はもちろん、地縁団体も盛り立てていく!

箕面市の皆さん!!

自治会を中心とする
地縁団体との化学反応を
一緒に体感しませんか?



箕面市の自治会を考える会は、
箕面市の様々な課題の一部分を切り取って
解決しようとしているものではありません。
自治会が核となり様々な地縁団体と繋がることで
子供から高齢者まで箕面市に住んでよかったと思える
取り組みをして行こうと考えています。

誰もが参加できる自治会だからこそ成せる技!

箕面市の自治会を考える会

お問い合わせ: tokihiro12@gmail.com
右のQRコードからお気軽にどうぞ▶



私達 箕面市の自治会を考える会 とは

「自治会を考える会」は、自分が自治会長になった時に
「何をどうすれば」という悩みから、同じように悩んでいる自治会長さんの有志が集まり、社協の協力を得て話し合いを始めたのが、そもそもの始まりです。

その後、2022年度末に「箕面市の自治会の現代的意義とあるべき姿の提案書」が提出されたことを皮切りに、2023年度4回の対話イベントを実施、さらに2024年度には自治会を考える会+箕面市役所+箕面社協の三者でシンポジウムの開催を実現しました。

現在は、次のステージへ向け話し合いを行っています。

箕面市の自治会を考える会



令和7年度 赤い羽根共同募金 箕面市地域支え合いプロジェクト 助成事業

2021～2022年度 要望書提案

～2021年度は、自治会の困りごとから課題を掘り起こし、「要望書」として市に提案。

2022年度は、役員不足や会員減少、空き家問題、マンション特有の課題について協議を重ね「箕面市の自治会の現代的意義とあるべき姿の提案書」を作成。

箕面市の自治会の現代的意義とあるべき姿の提案書



▲全文はこちらからご覧いただけます

2023年度 4回にわたる対話ミーティングの開催

自治会の課題を共有し、自治会の意義や役割を見直す必要があることがわかり、マンション自治会では、管理組合との共存を図るため、「みなし自治会」の導入も検討すべきとされました。また、自治会内部の活動にとどまらず、コミセンの役割や理想像についての話し合い、地区防災委員会と連携しながら自主防災体制を強化し、日頃の備えを進める重要性が確認されました。



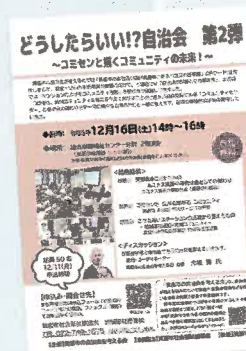
第1回 2023年7月8日

意見交換の内容

防災を軸に、若い世代の自治会加入促進や役員負担軽減が課題。

年配者の活用や適材適所を重視し、負担軽減と継続性の確保を模索。

防災・認知症など住民の関心事を軸に、加入促進と活動の活性化を図る。



第2回 2023年9月23日

意見交換の内容

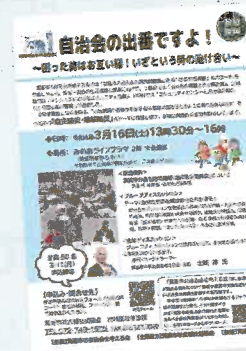
自治会と管理組合の役割の違いや一体化の難しさが議論され、参加率向上のための工夫や、高齢化や防災対応の重要性が指摘されました。また、市の支援体制やマンションごとの課題解決のための窓口整備が求められました。



第3回 2023年12月16日

意見交換の内容

コミセンの運営には高齢化や地域活動の負担が増しているという意見が多く、特に役員の交代や参加意欲の低下が問題視されています。これに対して、DX化や柔軟な運営体制の見直しが必要とされています。



第4回 2024年3月16日

意見交換の内容

地域の防災力向上には、自治会の役割が重要であり住民が一丸となって共助を強化することが求められています。特に、防災ステーションの活用や訓練の工夫が重要で、市や自治会が連携して取り組むべきだと意見が多く出ました。

参加者合計
延べ **174** 人
(参加組織延べ173団体)

2024年度 第1期集大成ともいえるシンポジウムの開催

4回の対話ミーティングの集大成ともいえるシンポジウム「共助でつながる自治会が地域社会の未来をひらく」を開催。

自治会に加入しておられる方、おられない方、様々な方にご参加いただきました。

また、様々な世代の登壇者が語り合い、それぞれの世代における、「自治会」や「ご近所」の素敵な魅力が見える場となり、誰もが参加できる自治会である魅力が伝わったシンポジウムとなりました。



参加者合計 **318** 名

アンケート数 **149** 件

アンケート一例

堂目先生の講演は「共感をつくる共社会」についての視点が心に響き、学問の重要性を再認識しました。アダム・スミスが自治会活動と関連していることに気づき、SDGsの視点から共助の大切さを理解しましたが、学問的な内容は地域住民向けに少し誠実に感じました。

幼少期のエピソードが脚本に生かされており、『Home』が地域づきあいの在り方を考えるきっかけになりました。

若い世代の自治会活動への関与が新鮮で、SNSを活用した自治会運営が重要だと感じました。ピースガーデン自治会や清水さんの話が印象的で、自治会の可能性を感じました。

自治会の必要性を再認識し、共感を持つ子どもたちのつながりが生まれることを理解しましたが、若い世代の参加のためだけでなく、世代を超えて共感し合える自治会の姿が求められていると感じました。

地域行政と住民のつながりが大切で、自治会の世代交代や柔軟な組織作りが求められます。また、防災活動やひきこもり支援についても考えるきっかけになりました。